

パラダイムシフトと医療現場 大阪狭山市の例

田野 成美¹、芝辻 千歳¹、磯野 富佐子¹、豊山 美里¹、出口 祐基子¹、狗巻 佳代¹、
矢倉 ひとみ¹、竹内 美穂¹、遠所 朋子¹、岩永 幸²、新田 一枝²、竹村 豊³、井上 徳浩⁴¹大阪狭山食物アレルギー・アトピーサークル『Smile Smile』、²大阪狭山市保健センター、
³近畿大学医学部小児科学教室、⁴国立病院機構大阪南医療センター小児科

医療は日進月歩で、後になって大なり小なり病気に対する考え方の変化を気づくことはあるようです。私たちがその変化を感じただけでなく、早期予防・早期治療の大切さを感じた経験をお伝えします。

アレルギーの新しい考えは一般の人でもネットやニュースで知ることがあります。ただし、どうしてもその医療にたどり着くかもわからなければ、子どもが成長してから知るかもしれないし、通常であれば最先端の医療は身近にはありません。

私たちアレルギーの患者を持つ母親は、実際に子どもの治療をして、『もっと早く知っておけば良かった』と思う標準治療に行き着いた経験から、『悩んでいる人たちにもっと早く届ける事はできないか』と考えました。大阪狭山市長や保健センターに提案し、スキンケア手技の取得、疑問の解決、病気への早期対策や最近の知見を知ってもらう為に「乳幼児スキンケア講習会」を保健センター、専門医と三者協働事業として実施して参りました。その結果、子育て支援として喜んでいただき大きな成功裏に収めることができました。

それから数年、状況が変化してきました。早期に肌荒れを予防・治療しようとしていただけですが、保湿剤でスキンケアをすることによりアトピー性皮膚炎の発症が抑えられることが報告されました。さらに、皮膚治療をベースにしておけば、早期の卵摂取についても可能性がでてきたことをニュースで知り、これらに対するパラダイムシフトを肌で感じる事から、講習会参加の保護者や保健センターの職員と喜ぶことができました。

新しく正しい情報を知りたいのは当然ですが、それがわからない時点から、日常生活が楽になるような治療をしたら、疾患概念のパラダイムシフトがおこり、正しい努力だったことがわかりました。保護者からの感謝だけでなく、子ども達の経過が良い事、専門医に相談、対策してもらえた事などを含めこの事業はとても満足できるものとなりました。

なった病気を治すのは大変ですが、予防対策は自治体レベルでできる事があり、それによって日常生活はもちろん子どもの将来が大きく変わる事が自分たちにも実感できました。

アレルギーサークルとしては行政や医療への橋渡しをさせていただきましたが、来ていただけた保護者達には大きな未来への橋渡しになりました。大阪狭山市の乳幼児スキンケア講習会を通じて予防医療、早期治療という枠組みで、子育てが全国で支援されることを願っております。